

令和5年度（2023年度）

公益財団法人びわ湖芸術文化財団事業計画

I 事業方針

滋賀県域全体の文化振興施策を総合的に推進する「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」の令和5年度は、滋賀県から受託する第4期指定管理の3年目となる。

滋賀県文化振興基本方針（第3次）の基本目標である「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため、令和3年3月に改訂した財団の「中期経営計画」に基づき、県立文化ホール2館体制のもと、びわ湖ホールを本県の舞台芸術の中心的な施設として、優れた舞台芸術を国内外に発信するとともに、地域に根ざした文化芸術活動を支援する文化産業交流会館と地域創造部が有機的に連携し、市町ホール等と協働しながら、県民の皆様誰もが文化芸術を身近に触れられる多彩な事業を展開する。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ施設稼働率や自主事業の入場率については回復傾向にあるものの、未だコロナ前の水準までには回復しておらず、加えて、ロシアによるウクライナ侵略の影響による燃料価格の高騰に伴う光熱費の大幅な増加や、物価上昇を踏まえた賃上げに伴う委託業務の経費増など、財団を取り巻く経営環境は厳しさを増している。こうしたなか、安心安全に劇場を訪れていただけるよう、引き続き必要な対策を講じるとともに、より一層の収入確保や経費節減に努めることにより、劇場運営の維持継続、経営の健全化を図っていく。

1 法人本部

法人本部では、法人全体の総務・経理事務を行うとともに、県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、福祉団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実し、協働連携のもと、県民の皆様が身近に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、創作活動の発表や鑑賞の場、文化情報の提供等を通じて、誰もが文化芸術に親しめる環境を整備するほか、県や市町の文化ホール等が取り組む障害者の文化芸術活動を支えるモデル事業を支援していく。

さらに、地域で活動する若手アーティストやコーディネーターの育成・支援事業、滋賀の魅力を発信する事業等を展開し、文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀の実現を目指すとともに、これらの事業への取組をアピールし、企業、団体や個人から財団運営に対する支援にも結びつけていく。

2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

開館25周年の節目を迎えるびわ湖ホールは、第3代芸術監督に阪哲朗を迎える。2023年度も、これまでの実績を踏まえ、我が国の舞台芸術の水準の向上に貢献し、「トップレベルの劇場を目指す」という視点と、誰もが気軽に訪れることができる「親しみやすい劇場を目指す」という双方の視点に立ち、バランス良く自主事業を展開する。

県民の皆様が、滋賀県にびわ湖ホールがあることを「誇り」に感じていただけるよう、また、国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供することで、県外からも多くの方々にお越しいただけるよう、そして、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指していく。

With コロナの時代の中で、自主事業の新たなあり方を引き続き検討するとともに、様々な理由でホールに音来られない方に向けた有料・無料による配信、障害のある方や高齢の方、次代を担う若い方に向けたアウトリーチ事業の充実にも努める。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響がなお払拭しきれず、従前のような入場料収入が見込めない中、公益財団法人のメリットを最大限PRすることにより、寄付や企業協賛・オフィシャルスポンサー・ネーミングライツ等、自主財源確保に努める。地域の団体・企業との連携強化や、次代を担う青少年が質の高い舞台芸術を体験し、びわ湖ホールをより身近に感じてもらう取組を進めるなど、県民の皆様のニーズに沿った効果的な広報を行い、繰り返しご来場いただけるよう促す。

びわ湖ホールの「創造活動の核」として設置している声楽アンサンブルを中心とした自主事業の制作をはじめ、歌劇、音楽、演劇、舞踊等の多彩なジャンルの公演を行うほか、十分な感染症対策を講じながら、春の音楽祭等を開催するなど、地域の賑わいの創出および経済の活性化に貢献し、幅広い方々から親しみを持ってもらえる事業を展開する。

3 滋賀県立文化産業交流会館

滋賀県北部の芸術文化活動の拠点としての役割を担ってきた文化産業交流会館は、令和5年度に開館35周年を迎える。湖北地域の豊かな自然や歴史、文化のもとで引き続き多様な分野との連携に努め、芸術文化の魅力を伝えていく。

古典芸能の取り組みを始めて10周年の節目の令和3年度に、総務大臣から地域資源である伝統文化の普及・振興に貢献したとして「地域創造大賞」を受賞、また、関西で唯一、邦楽の専門課程を有する大阪音楽大学と連携・協力協定を締結した。このことを誇りに、またさらに連携を図りながら、特設舞台芝居小屋「長栄座」における「夏のフェスティバル」など、古典芸能関連事業の内容の充実を図り、次世代に継承するとともに全国に発信していく。

また、びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演するコンサート等を実施し、邦楽と洋楽の双方の舞台芸術を年間通じて、幅広い世代の方に堪能していただける事業展開を図る。

イベントホール（収容人数約2,000人）では、多目的に利用可能な機能を活かし、「長栄座」公演、ベビーカーのまま入場できる「0歳児からのコンサート」、マーチングバンドの祭典「フィールドアート」など、独自性を発揮した公演を行うとともに、次代を担う青少年の創造力を育む「ユースシアター事業」は、令和5年度から新たな試みとして「邦楽ミュージカル」を制作上演する。

小劇場（収容約200人）では、4年目となる滋賀ゆかりの新進アーティストなどの育成を目的としたコンサートを実施する。また、人材育成のための邦楽実演家の養成事業や次世代を対象とした箏曲・日本舞踊のワークショップ参加者等による成果発表会を行

う。

さらに、開館 35 周年記念事業として、滋賀ゆかりの打楽器奏者等によるアンサンブルをびわ湖ホールと 2 会場で、また、佐渡裕指揮による吹奏楽の演奏会や藤原道山の尺八コンサートを開催するとともに、令和 3 年度からの 3 ヶ年計画で開催している長栄座「むすひ」の完成記念として親子で楽しめる能の体験と舞台公演を行う。

そのほか、関係機関と連携しながら産業分野をはじめとする多様な方々と芸術文化を通じた情報交換会や伝統産業展を実施する。また、公益財団法人平和堂財団から「鳩の音楽会」などの次世代事業を引き続き受託し制作を担う。

会館経営においては、国、公益法人、民間等の補助金、協賛金や文化基金の獲得とともに、新幹線米原駅から徒歩 7 分に立地する利便性の高い多目的施設であることをさらに周知し、自主事業の集客を図るとともに、イベントホールでの産業フェアや展示会等、様々な貸館利用を促進する。

II 事業計画の概要

1. 法人本部

(1) 自主事業

県内文化ホールとの文化芸術事業等の情報共有や事業企画等のスキルアップを図り、協働連携しながら、誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供するとともに、地域で活動するアーティストや地域と文化芸術活動をつなぐ人材を育成・発掘する事業を展開する。

ア. 地域連携

県内の文化ホールをはじめ、文化活動者・文化団体と協働連携し、県域でのネットワークの構築や、文化ホールが地域の文化活動拠点として活性化することを目的に「アートコラボレーション事業」に取り組む。具体的には、市町ホールから事業を募集するほか、滋賀県文化賞（文化奨励賞、次世代文化賞を含む）受賞者によるコンサートや、滋賀をテーマに新作狂言の創作に取り組んで14年目を迎える「おうみ狂言図鑑」を市町ホール等との協働により制作・上演する。

さらに、文化・経済フォーラム滋賀と共催で文化芸術の可能性を地域に取り入れるアートプロジェクト「びわ湖・アーティスト・みんぐる」を、滋賀県と共催で「障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業」を実施するほか、文化団体等と協働して地域のアート活動を支え、地域の活性化を目指す「アート活動支援事業」を実施する。

イ. 情報提供

季刊誌『湖国と文化』を編集・発行し、本県の歴史、風土、自然、文化芸術など、滋賀の多彩な魅力を県内外に発信する。

(2) 受託事業

ア. 滋賀県芸術文化祭

滋賀県芸術文化祭実行委員会を組織し事務局運営を担い、県民の皆様の文化芸術創作活動における発表の場として、美術、写真、文芸の3つの公募展を開催し、作品を身近に鑑賞できる機会を提供する。

また、多くの県民の皆様に滋賀県芸術祭にご参加いただくため、オープニングイベントを実施する。

イ. 県内文化情報提供事業

(ア) 湖国文化情報 『れいかる』 編集・発行

県内各地の文化施設で行われる各種文化活動を紹介する湖国文化情報『れいかる』を編集・発行し、県民の皆様への情報提供を通して、文化活動の一層の活性化を図る。

(イ) 総合文化誌 『湖国と文化』 提供

財団が編集・発行した総合文化誌『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等へ配本し、湖国の文化の魅力を発信する。

(3) 独自事業

ア. 文化・経済フォーラム滋賀

文化団体、芸術家、企業、学術、行政等、多様な分野で活躍する者や団体に組織するフォーラムの事務局運営を担い、各分野を超えた交流や「文化で滋賀を元気に！」する事業を推進し、本県の文化と経済の連携による地域の活性化を目指す。

(4) 広報営業活動

びわ湖ホールや文化産業交流会館と連携を図りながら、各種事業チラシの配布をはじめ、ホームページによる広報やチケット販売等を行う。また、びわ湖ホールの広報ネットワークも活用しながら、新聞社や放送局への効果的なプレスリリースに努める。

「アートコラボレーション事業」等、県内の文化ホールと協働で展開する事業のチケット販売についても当財団ホームページ上のチケット販売システムを活用し、取り扱い、便宜を図る。

また『湖国と文化』を「びわ湖ホール友の会」の会員特典に盛り込むことで、新たな購読者を開拓するなど、びわ湖ホール、文化産業交流会館および地域創造部を一体的にとらえ、それぞれが発行する広報媒体を有効活用し、それぞれの営業機会を相互に利用する効果的な営業活動を行う。

2 びわ湖ホール

(1) 自主事業

ア. 令和5年度自主事業

令和5年度は開館25周年、また第3代芸術監督に初の関西出身者で滋賀県在住の阪哲朗が就任するという節目の年となる。「ここに劇場があって良かったと思ってもらえる場所にしたい。」という阪芸術監督の思いに沿って国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指す。

びわ湖ホールの「創造活動の核」として設置しているびわ湖ホール声楽アンサンブルを中心とした自主事業の制作をはじめ、歌劇、音楽、演劇、舞踊等の多彩なジャンルにわたって、質が高く特色ある事業を厳選して実施する。

また、阪が芸術監督として初めて取り組む春の音楽祭をはじめ、地域の賑わいの創出や経済の活性化に貢献し、幅広い方々から親しみを持ってもらえる事業を展開するとともに公演の配信やアウトリーチ等により、舞台芸術を広く県民の皆様に普及する活動にも取り組む。

(ア) オペラ

日本最高水準の力を結集して上演する「プロデュースオペラ」や、国内の劇場と連携する「共同制作オペラ」、青少年や初心者に向けた入門的役割も果たす「オペラへの招待」シリーズで優れた作品を上演する。

- ・プロデュースオペラは、R. シュトラウスが、「モーツァルトのオペラ」を目指して作曲した『ばらの騎士』を上演する。阪 哲朗指揮、演出には劇場と25年の歳月をともに歩んだ中村敬一、国内選りすぐりの最高峰のキャストを迎え華々しく上演する。
- ・国内共同制作公演は、神奈川県民ホール&二期会(07年度~15年度)、藤原歌劇団(16年度~17年度)を経て、6年振りに東京芸術劇場&やまぎん県民ホールとの3館で実施する。阪 哲朗指揮、オペラ初演出となる野村萬斎、国内第一線級の歌手を揃える『こうもり』を祝祭感豊かに新制作する。フロッシュ役は桂米團治が努める。
- ・「オペラへの招待」シリーズでは、大ホールで上演する『ばらの騎士』とつながりの深いモーツァルト不朽の名作『フィガロの結婚』で、シリーズ初の6公演上演に挑む。指揮は阪 哲朗、演出に数多くのオペラ作品を手掛ける名匠、松本重孝を迎える。また、岩田達宗演出により地域の力を結集してオフエンバックの『天国と地獄』を4公演実施、いずれも新制作で臨む。お求めやすい入場料と本格的な公演レベルの両立で、老若男女を問わず新たなファン開拓に努める。
- ・令和3年度に新制作し、4年度から学校巡回オペラとして県内外で上演している松井和彦作曲『泣いた赤おに』を、引き続き県内の学校巡回オペラ公演として、また、公演団体として採択された文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業」として県外でも巡回公演を行う。
- ・共催事業として、イタリア・シチリア島のパレルモ・マッシモ劇場による『ラ・ボ

エーム』を、また、ボローニャ歌劇場による『ノルマ』を上演する。

(イ) オーケストラ

- ・開館 25 周年記念オペラ ガラ・コンサートとして、阪 哲朗指揮、京都市交響楽団により、お客様とともに 25 周年を祝う公演を実施する。
- ・1 年を締めくくる特別な日に最高の音楽に包まれて過ごすコンサートとして定着している「ジルヴェスター・コンサート 2023」を開催する（2020 年度より昼間開催）。
- ・沼尻竜典と京都市交響楽団による、マーラーシリーズ vol. 4 を引き続き開催する。
- ・誰もが知る有名な交響曲や協奏曲を日本センチュリー交響楽団の演奏でお楽しみいただく「名曲コンサート」を開催するほか、青少年・初心者向けのコンサートとして定評のある関西フィルハーモニー管弦楽団による「子どものための管弦楽教室」を開催する。
- ・共催事業として、日本センチュリー交響楽団のびわ湖定期公演 vol. 16 を実施する。

(ウ) 室内楽等

- ・「特別コンサート」として大ホールでは、欧米で「最高のメゾソプラノの一人」と称される藤村実穂子のリサイタル（びわ湖ホール初登場）、また、「名曲コンサート」の田村 響（ピアノ）のリサイタルでは開館 25 周年を記念してシアターメイツ会員を無料招待する。
- ・上質な音楽を小ホールという親密な空間でお楽しみいただく「びわ湖の午後」シリーズでは、池田香織（メゾソプラノ）やアンヌ・ケフェレック（ピアノ）によるリサイタルを開催する。
- ・2021 年に人気を博した、硬派弦楽アンサンブル「石田組」が再び登場し、びわ湖ホールオリジナルプログラムを演奏する。
- ・室内楽ファンの裾野を広げる「室内楽への招待」では、スペインを代表するカザルス弦楽四重奏団を招聘し、関連企画として講座も開催する。また、昨年引き続き共催事業として「品川カルテット」の公演を実施する。
- ・全国公立文化施設協会・日本音楽財団と連携し、多くの著名演奏家やオーケストラとも共演を重ねるヴェロニカ・エーベルレ（ヴァイオリン）の公演を行う。
- ・「気軽にクラシック」は、チケット価格を 1,100 円、公演時間も 1 時間程度と短く設定し、より気軽にお楽しみいただけるシリーズとして、引き続き 4 公演実施する。
- ・多彩なジャンル・楽器の演奏を楽しんでいただく「大人の楽しみ方」や、ブラムスとクララ・シューマンの愛と友情の物語をピアノと語りで紡ぐ「音符に愛を閉じこめて」など、年間を通じて幅広いニーズに合わせた多彩な公演を行う。

(エ) 声楽アンサンブル

- ・様々なジャンルの声楽曲に取り組む定期公演では、4 月に名誉指揮者の田中信昭を迎える。また令和 5 年 3 月には声楽家から厚い信頼を得る河原忠之を迎え、びわ湖ホー

ル公演の翌日に、同プログラムにて東京公演も行う。

- ・2020年度よりスタートした童謡や唱歌、昭和・平成の名曲をオーケストラと歌で綴る「美しい日本の歌」を引き続き、びわ湖ホール・文化産業交流会館の2会場で実施し、依頼公演として兵庫でも11月に実施する。
- ・故・若杉 弘初代芸術監督より寄贈されたピアノ「ピノ」とソロ登録メンバーで様々な声楽曲を紹介する「ピノシリーズ」では、令和4年度に続きピアノ・お話を河原忠之が務め「日本語とうた」をお届けする。

(オ) ダンス

- ・子どもたちが初めて見ても楽しめるバレエとして見どころを凝縮した東京バレエ団の「ドン・キホーテの夢」を上演する。
- ・オハッド・ナハリンが振り付けるバットシェバ舞踊団の最新作を埼玉、北九州の劇場と連携して上演する。

(カ) 演劇・伝統芸能

- ・文化庁ネットワーク助成を受けて、永井 愛が20年前に劇団青年座に書き下ろした話題作の二兎社公演を実施する。また、古典を現代に呼び覚ます“運動”を続ける木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻（せっしゅうがっぽうがつじ）」を実施する。
- ・伝統芸能では、毎年好評の野村万作・野村萬斎狂言公演を実施する。

(キ) フェスティバル等

- ・新たに就任する阪 哲朗芸術監督のもと、春の音楽祭を「びわ湖の春 音楽祭」に改称し、クラシック以外の分野の音楽等も取り入れながら、4月29日・30日の2日間に集約して開催する。中ホールでは昨年度からさらに内容を拡充した、「オーストリア体感広場」を開催するほか、県内4市町のホールと連携して音楽祭を盛り上げ、県域でのお祭りを創出する。

(ク) 普及事業

- ・県や県教育委員会と連携し、次代を担う青少年が舞台芸術に触れる機会を創出するため、「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」（「ホールの子」事業）を6日間計12公演開催し、芸術監督自ら指揮する。さらに阪の芸術監督就任にあたり、「ホールの子」事業を広く一般にも知っていただけるよう、同プログラムを一般向けに有料で1日2公演実施する。
- ・地域の劇場、県教育委員会や県内市町教育委員会と連携して県内ホールや小学校を会場として、オペラ『泣いた赤おに』を上演する。また、文化庁の委託を受けて、びわ湖ホール声楽アンサンブルが実演団体として、引き続き全国の小学校・中学校等において巡回公演を行う。
- ・幅広い世代に広く親しんでいただけるよう、令和2年に開始したびわ湖ホール声楽アンサンブルによる、童謡や唱歌、昭和・平成の名曲で綴る「美しい日本の歌」

コンサートを引き続き実施する(vol.4)。

- ・一般公募により選ばれた出演者によるコンサート「アンサンブルの楽しみ」を継続して開催する。
- ・入場料無料のロビーコンサートは、7月より声楽アンサンブルの公演をもって再開する。
- ・オペラ講座、公演に関連したワークショップ、セミナーなどを開催し、舞台芸術の普及・振興に努める。
- ・劇場を訪れにくい人にも舞台芸術に触れられる機会を提供するため、医療・福祉施設における「ホスピタルコンサート」などを実施する。
- ・日頃からピアノ演奏に励む滋賀県在住、在学の児童生徒から一般(30歳未満)まで部門別に「滋賀県ピアノコンクール」を引き続き実施する。
- ・公益財団法人への移行を機に、2011年度に設けた「びわ湖ホール舞台芸術基金」について、オペラへの招待シリーズに基金の一部を活用する。今後もお寄付いただいた皆様のお志を生かした事業を展開する。
- ・初代芸術監督であった故若杉 弘氏の夫人の故長野羊奈子氏から 2015年度に遺贈を受けて設けた「若杉・長野音楽基金」について、「次世代の音楽家を育成して欲しい」というお二人の思いを形にするため、「阪哲朗オペラセミナー」と「林康子声楽曲研修」にあてる。
- ・新進芸術家の初めてのリサイタルを応援する「ザ・ファーストリサイタル」は、財団全体の事業見直しにより令和4年度をもって終了する。

イ. 次年度以降自主事業準備

令和6年度に開催する自主事業公演の事前準備を実施するとともに、令和6年度以降の自主事業実施に向けて、公演調査や事前交渉を行います。

ウ. 専属声楽アンサンブル運営

びわ湖ホールの創造活動の核として設置している「びわ湖ホール声楽アンサンブル」については、定期公演をはじめ、「オペラへの招待」などの自主制作オペラ公演、「美しい日本の歌」公演などの自主公演に出演する。

また、小学校へ出向いての「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」、県内外各地域の文化ホールや教育機関と連携して実施する県内巡回オペラ「泣いた赤おに」、県内の小学校・特別支援学校等の児童・生徒を対象にしたオーケストラ公演「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」などの普及事業にも、その中心となって活動を展開し、子どもたちをはじめ、県民の皆様(オペラ「泣いた赤おに」は県外を含む)が舞台芸術に触れる機会を創出する。

エ. ネットワークの形成

県の公立文化施設協議会の会長館として、県内公立文化施設のネットワーク形成と職員の能力向上のため、引き続き館長会議やびわ湖舞台芸術スタッフセミナーとしてアートマネジメント研修等を実施する。

(2) 広報マーケティング活動等

情報発信とチケットの販売促進を図るため、Webサイト・SNS・メールマガジン等インターネットを使用した幅広いPR活動のほか、多様なパブリシティ活動、情報誌の発行、新聞・雑誌・電波・交通等による広告を行う。また、びわ湖ホール友の会の入会促進や舞台芸術基金の周知に努め、幅広く寄付を呼びかけるとともに、併せて文化産業交流会館や地域創造部の事業に対しても公演スポンサーを募るなど、協賛支援の確保や貸館利用についての営業活動を展開する。劇場サポーター、シアターメイツをはじめ、地域のつながりや地元企業の協力を得て、チラシや情報誌の配架に努めるなど、人と人のネットワークづくりを生かした広報活動を行う。

ア. 広報営業活動

びわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、自主事業、普及事業等に関する情報が記事やニュースで取り上げられるようマスコミ等へ効果的な情報提供を行うとともに、リレーションを構築する。

ホームページの充実を図り、メールマガジン、SNS等による公演情報等の発信、舞台芸術情報誌「湖響」(年4回)、公演チケット情報誌「Stage」(毎月)を発行する。また、想定される購買層やチケットの販売状況を勘案し、顧客の動向に即した広告宣伝(新聞・雑誌・ウェブサイト・電波・SNS・交通広告等)を行う。

さらに、オフィシャルスポンサー制度をはじめとする企業団体等の協賛制度の周知・利用を積極的に進め、びわ湖ホールのファンを増やし、チケット販売、友の会会員、寄付者等の増加につなげるために、地域の企業、経済団体、関係施設・団体等との交流を深めるとともに、各会員との良好な関係継続に努める。友の会の特別会員・サポート会員については、そのメリットを積極的にPRし、個人・企業を問わず広く加入を勧める。

地域創造部や文化産業交流会館を一体的にとらえ、会員招待対象の公演を幅広く設定するなど、顧客らがメリット感を得やすいよう工夫する。また、広報媒体や営業の機会を相互に有効活用するなど、財団としてのメリットを最大限生かした営業活動を行う。

イ. チケット販売

友の会会員への優先発売や委託販売先ウェブサイトとの連携を行うとともに、組織販売やこれまで蓄積した顧客リスト、アンケート結果の整理・分析を進めることで、チケットの効果的な販売活動につなげ、顧客の拡大に努める。オペラ公演等のネット販売においては、英語によるチケット購入ページの作成を検討し、海外誘客にも取り組む。

さらに、オペラ2公演セット券の販売等企画商品の開発や旅行会社・ホテル等とのタイアップ企画等を通じた販売にも積極的に取り組み、新たな顧客層の開拓に努める。

また、令和4年度末にリニューアルしたチケットシステムについて、利便性等の理解を推進するため、窓口、電話、オンライン上での周知や説明を行うとともに、ネットワーク等のログ解析を進めることで安定したシステムの稼働の継続に努める。

ウ. ホームページの運用

令和3年度にリニューアルしたホームページの内容を充実させ、常に最新の情報を提供することにより顧客の利便性やアクセス環境の向上を図る。特に公演ページでは、トピックスや出演者からのコメント、稽古写真や YouTube 動画を掲載する。また、「びわ湖の春 音楽祭」は、特設ウェブサイトを構築し、音楽祭に興味を持ってもらえるよう、公演内容やコラム等を紹介する。また、SNSを積極的に活用し、身近な情報を頻繁に発信することで、ホールの取組に関心が高まるように働きかけるとともに、ウェブサイトへ誘導し、ホールへの来場およびチケットの購買行動に結びつきやすくなる工夫を凝らす。

さらに、ホームページへのアクセス数や動向を分析することにより、広告の打ち方やデザインのあり方を改善し、訪問者数のアップを目指す。

エ. 友の会運営

顧客の拡大・定着、チケット販売等の営業活動の促進、購入データの分析を行い、販売促進に努めるとともに、支援者の拡大の手法（ポイント制等）についての検討を行う。

また、機会をとらえて会員特典を詳しく説明することにより、サポート会員、特別会員への加入率を高め、チケット販売促進に結びつける。

さらに、地域創造部や文化産業交流会館を一体的にとらえて会員特典を設定し、友の会会員の満足度や利便性の向上に努める。

オ. 人と人とのネットワークづくり

(ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的とした「劇場サポーター」制度については、研修や交流会を実施するなど充実した運営を行い、積極的な公演の鑑賞を勧めることで、舞台芸術の普及を図るとともに、サポーターとホールとの関係強化に努める。

(イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高め、観客層の裾野を広げるため、引き続き「シアターメイツ」会員を募集し、対象公演のチケットの割引販売、稽古見学会等を実施する。

また、シアターメイツ特別顧問キャラクター「にゃんばら先生」を活用したPR活動を行う。

(ウ) 館内見学ツアー等

びわ湖ホールや舞台芸術への興味、関心を高め、観客創造に資するため、好評の「まるっとステージツアー」を引き続き実施するほか、舞台芸術に関する雑誌、図書、CD、ビデオ等を備えた舞台芸術情報サロンの運営やホールグッズの販売等を行う。

さらに、自主公演時の託児サービス等を実施するなど、来館者サービスの充実に努める。

カ. びわ湖ホール舞台芸術基金の周知と活用

びわ湖ホール舞台芸術基金の周知に努めるとともに、オンラインによる手軽な寄付システムの運用を通じて寄付拡大に努める。また、寄付を活用した事業展開を図る。

(3) 施設の提供

びわ湖ホール施設の提供にあたっては、利用者(主催者、出演者等)の視点に立って、例えば企業の周年行事にびわ湖ホール声楽アンサンブルの演奏を組み込んだ貸館プランを提案するなど、使いやすく親しめる貸館業務に取り組む。

大中小の各ホールのほか、リハーサル室、練習室、研修室およびホワイエについても活用促進を図るとともに、幅広いジャンルにわたって多くの方々に利用していただき、主催者をはじめ、来場者にも満足していただけるよう万全の対応に努める。

また、自主事業との調整を密にし、効率的な利用受付に努め、貸館可能日の一層の増加を図るとともに、利用者には継続して利用いただけるよう、サービスの向上に努める。

さらに、周辺施設や文化産業交流会館等の関連施設との連携・協力による様々な利用方法を提案し、大規模な貸館案件なども含め、利用者の要望に応じられるよう、利用促進に努める。

なお、令和6年度においては、舞台の音響設備・照明設備等の改修工事により大・中・小ホールが長期間利用休止となる予定のため、一年前である令和5年度のうちに過去施設利用者等に広く周知し、開館日への利用調整を行うなど影響が最小限となるように努める。

(4) 管理運営

施設の適正な管理を行うことで、日々の安全な運用ができ、長寿命化にも資するよう努めるとともに、びわ湖ホールとしての質の高いサービスの提供を行う。

また、施設が老朽化する中で、利用者ニーズに合わせた効果的な改修ができるように県に要望し、安全・安心な施設管理に努める。

なお、県の長寿命化等推進整備事業として、長期保全計画に基づき改修工事を行う。

ア. ホール管理運営

施設の維持管理を適正に行うとともに、公演開催に伴うチケット販売業務、総合案内業務、舞台技術業務およびレセプション業務等について、びわ湖ホールにふさわしい質の高いサービスを提供する。

関連ガイドラインに基づく、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を状況に応じて行い、お客様が安心安全に施設利用できる環境づくりに努める。

災害時の緊急対応について、「滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールおよびびわ湖ホール駐車場災害時の緊急対応要領」をホール職員に徹底、防災訓練を実施し、非常時の対

応に備える。

また、日常の施設・設備管理で危険箇所が発見された場合は、速やかな改修に努める。

イ．舞台技術運営

(ア) 舞台設備および備品管理運営

舞台設備の日常点検および管理を適正に行うとともに、施設利用者の使いやすい環境を提供する。

(イ) 技術的専門性の向上

びわ湖ホールの機能を十分に活用し、創造性を発揮した舞台技術が発揮できるよう高度な技術力の確保に努める。また、他の劇場との情報交換や調査研究を通して、技術的専門性の向上を目指す。

(ウ) 舞台監督、プランナーの活用

自主事業では舞台監督、プランナー、チーフオペレーターなどを職員で担当し、事業費の削減に努める。貸館事業では要望があれば舞台監督、プランナーを担当し、オペレーターの増員はできるだけ職員を配置することで増収に努める。

(エ) 人材育成

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨に沿った取り組みとして、職員の資質の向上を図るために、「舞台技術研修」を実施する。また、他の劇場や近隣の舞台芸術系大学等との連携を図りながら地域の人材育成に努める。

自粛期間中から開始した「舞台用語ハンドブック」(全国公立文化施設協会刊)の用語解説を継続してSNSで発信することで、滋賀県はもとより全国の舞台技術に携わる人をはじめ、学生など、今後舞台人を目指す人への支援を行うこととする。

(オ) 安全管理

「びわ湖ホール劇場技術運営マニュアル」に則り、舞台の安全な管理運営に努める。

(カ) 大規模修繕工事の実施

令和6年度に実施する舞台関係の修繕工事に向けて設計等の事前準備を令和5年度に行う。

ウ．駐車場管理運営

駐車場の維持管理を適正に行うとともに、ホール来館者をはじめ多くの方々が利用しやすい運営を行う。24時間入出庫可能をさらにPRして、定期券利用の促進に努める。また、管理業務委託会社と連携し駐車場利用の促進と利用者サービスの向上

を目的に最大料金設定を含めて新しいサービスを引き続き、県と連携して検討していく。

3 滋賀県立文化産業交流会館

(1) 自主事業

ア. 令和5年度自主事業

滋賀県文化振興基本方針を具現化するため、次の7つの目標に向かってびわ湖ホールと連携のもと、2館の役割を明確にしながらか種事業に取り組む。

(ア) 古典芸能を次世代に

「長栄座」公演は、引き続き文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」からの助成金を活用し、多彩なジャンルとコラボしながら、質が高く親しみやすい古典芸能の自主制作公演を行う。併せて「長栄座」公演の理解を深めていただくためのプレ企画を実施する。

また、令和3年度から引き続き、芝居小屋「長栄座」をイベントホール内に設営し「夏のフェスティバル」として、幕開けの2日間は自主制作公演「むすひ」、次に長栄座「むすひ」完成記念として片山九郎右衛門による能の体験教室と舞台公演、最終日には、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる「美しい日本の歌」米原公演でフィナーレとし、和の文化の魅力を県内外に発信する。

さらに、滋賀県出身の人間国宝である初代 山本邦山に師事し、尺八の新たな魅力を拓く藤原道山のコンサートを開催する。

(イ) 子ども・青少年の健全な育成のために

子どもたちに古典芸能に興味を持ってもらうための「古典芸能キッズワークショップ（箏・日本舞踊）」を行うとともに、キッズワークショップの箏部門を修了した子どもたちを対象に、演奏技術の向上を図る「箏曲ジュニア・アンサンブル」を実施する。

また、子どもや青少年が、互いを認め合いコミュニケーション能力を身につけながら舞台創作活動に参加する「ユースシアター事業」を行い、健全な育成と文化芸術への関心を高める。さらに、邦楽の若手演奏家を小・中学校へ派遣する「和のじかん」を実施し、古典芸能を身近に感じてもらう機会とする。

(ウ) 新進アーティストの飛躍のために

「邦楽専門実演家養成事業」は、今後も「長栄座」公演を支える実演家の養成事業としての機能を継続しながら、より高い水準の邦楽演奏家を輩出していくために内容の充実を図る。

「びわ湖ミュージックハーベスト」（受託）、「びわ湖ミュージックフォレスト」は、世界に向けて挑戦する滋賀ゆかりの新進アーティストの育成・支援を目的に実施する。「鳩の音楽会」（受託）とともに、公益財団法人平和堂財団および株式会社しがぎん経済文化センターとの協働により内容の充実を図る。

(エ) 文化芸術による共生社会実現のために

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画のもと、イベントホールの特性を活かしながらか障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しんでいただけるオーケストラとパフ

パフォーマンスによる「0歳児からのコンサート」を制作実施する。

(オ) 2館の統合の優位性を発揮

びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演する「びわ湖の春 音楽祭 2023」米原公演、「美しい日本の歌」米原公演、オペラ「泣いた赤おに」などを開催し、県北部での顧客創出を図る。

(カ) 施設の特性を活かした多様な舞台芸術を恒常的に

舞台芸術公演の実施にあたっては、古典芸能、クラシック音楽に加えてポピュラー音楽コンサート等、他の分野も充実させることで多様なニーズに応えられるラインアップとする。

イベントホールでは、可動式椅子の特性や移動式音響反射板を活かし、客席の半面を舞台のアクティビティエリアとして使用するマーチングバンドの祭典「フィールドアート」や佐渡裕指揮によるシエナ・ウインド・オーケストラ演奏会、バリアフリー型の公演など多彩なジャンルの催物をバランスよく計画し、公演を楽しむヴァリエーションを拡充する。

令和4年度に照明設備を全面改修した小劇場では、室内楽を中心としたコンサートやパフォーマンス公演を行う。また、令和4年度から財団の直営となった文化講座については新たに受講生の発表会を行うとともに、会館事業と連携し内容の充実を図っていく。

(キ) 産業分野との連携

公益財団法人滋賀県産業支援プラザと起業家向けのビジネスセミナーや、文化・経済フォーラム滋賀と産業分野をはじめ多様な方と芸術文化を通じた地域振興について考える「ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館」を開催する。また、芝居小屋「長栄座」での「夏のフェスティバル」に併せて、県モノづくり振興課や近隣の観光協会等の協力を得て、「近江のあたらしい伝統産業展」を実施する。

(2) 広報

ア. 広報営業活動

情報誌「湖響」(年4回)への記事掲載や県北部に購読者の多い中日新聞への寄稿(月2回)、自治体広報紙、ホームページおよびSNSによる情報発信、福井県、岐阜県エリアを含む新聞・放送局への資料提供や、事業協力名義等を得てテレビ・ラジオ、雑誌・情報誌等による広報を行う。

また、びわ湖ホール友の会会員特典の招待公演として、当会館公演も組み入れるなど、びわ湖ホール、地域創造部を一体的にとらえ、それぞれの営業機会を相互に利用する効果的な営業活動を行う。

さらに、近隣の商業施設や自治会等に毎月、事業案内を行うとともに、引き続きダイレクトメールの送付やメールマガジンを配信する。

イ. チケット販売

インターネットによるチケット販売をはじめ、団体販売やこれまでに蓄積した顧客リスト等を活用しながら、効果的な販売活動を行い、入場料収入の増加や顧客の拡大に努める。

また、びわ湖ホールチケットセンターでの販売、専用のチラシラックの設置、ダイレクトメールの一括発送、公演時のチラシ挟み込み等を2館で協力しながら、チケットの販売促進に努める。

ウ. アートフレンド（Eメール会員）

インターネットによるチケット販売や公演アンケート等でメールでの情報提供を許可いただいた方へ、定期的にチケット販売や公演についてのトピックスを配信する。

エ. 施設利用促進

イベントホールの移動式音響反射板の設置、イベントホール、小劇場の配信システムの整備および照明設備の全面改修などのPRを行い、新規顧客の開拓やリピーターの確保等、施設の利用促進を図る。

（3）施設の提供

多様な方々が利用する公共施設としてユニバーサルデザインの視点に立ち、利用者の安全確保を最優先として、人に優しく環境に配慮した効率的な管理運営を行う。また、ロビー周りの雰囲気づくりにも努め、開館して36年目を迎え施設が老朽化する中、計画的な改修が行われるよう県に要望していく。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行後も、状況に応じた予防対策を講じ、安心安全な施設環境を提供する。

（4）管理運営

効率的な施設運営に努めるとともに、法令に基づいた適正で安全な管理と質の高いサービスの提供を行う。また、利用団体や貸館利用者へのアンケートによる満足度調査、ご意見箱の設置、さらに対話により、利用者の意見・要望を把握し、業務改善に努める。

ア. 会館管理運営

舞台技術、施設管理面で経験豊かな人材を配置し、文化施設としての機能はもとより産業展示等にも対応したフレキシブルな管理と技術提供を行う。利用者には、技術的側面から催事の進行を支援し、要望に応じた細やかな舞台技術を提供する。

災害発生時または発生の恐れがある場合には、防災体制をとり、関係機関への情報提供と協力依頼を行い、利用者の安全確保に努める。なお、消防訓練は、年2回実施し、消防設備の取り扱いや通報、避難誘導が的確に実施できるよう職員教育を行う。

イ. 人材育成

職員の意識改革と資質の向上を図ることを目的に、びわ湖ホールと連携しながら職場研修、自己啓発研修、職場外研修の3つの視点から職員研修を継続的かつ発展的に実施する。さらに舞台技術研修や、公益法人に関する実務研修、会計研修等に参加し、専門的知識の習得に努める。

令和5年度(2023年度)自主事業一覧

(法人本部地域創造部)

(1) 自主事業

地域連携

●びわ湖・アーティスト・みんぐる

地域に出かけ、芸術(アート)を通して知と感性を刺激し合うような出会いや交流を生み出すことを狙いとしたアートプロジェクトを開催します。文化・経済フォーラム滋賀との共催事業。

① ガチャ・コン音楽祭 Vol.3 未定

近江鉄道沿線を旅しながら音楽を交流手段としてさまざまな出会いを題材に生まれる作品を楽しむ音楽ライブを行います。
実施地域：近江鉄道沿線

② C³(シーキューブ) Current×Creation×Composition ～古典と現代音楽の《関》～ 10月28日(土)

「弦楽四重奏×現代音楽」で近江・滋賀を巡りながら、その風情や土地に根付く伝統の魅力、世界観を音楽で探るコンサートを開催します。毎回開催地にちなんだ新作を注目の作曲家に委嘱し、作曲家のプレトークやワークショップなどで、現代音楽と開催地の魅力への理解を深めます。
会場：フィガロホール(大津市)

●滋賀県アートコラボレーション事業 6月～2024年1月

県内の文化ホール、アートNPO等の文化団体、文化活動者から提案を募集し、採択した事業を提案者と協働連携し、地域のネットワーク構築と地域の文化振興を目指して事業展開します。

① 第5回びわ湖音楽祭 in 彦根 6月11日(日)

提案団体：びわ湖音楽祭実行委員会
会場：ひこね市文化プラザ

② 音楽の絵本 7月15日(土)

提案団体：公益財団法人東近江市地域振興事業団
会場：東近江市あかね文化ホール

③ 狂言「金剛輪寺 豆の木太鼓」 9月23日(土・祝)

提案団体：一般社団法人愛荘町文化協会
会場：愛荘町立ハーティーセンター秦荘

④ 森の音楽会 9月23日（土・祝）

提案団体：株式会社ケイミックスパブリックビジネス
会 場：みずほ文化センター

⑤ 関西フィルハーモニー管弦楽団ニューイヤーコンサート 2024年1月14日（日）

提案団体：甲賀市教育委員会
会 場：甲賀市あいこうか市民ホール

●滋賀県アートコラボレーション事業

滋賀県文化賞等受賞者によるコンサート 山本英フルト・リサイタル 2024年2月23日（金・祝）

コンサートの協働制作事業。市町ホール等の活性化と県内の文化ホールとのネットワーク構築を目的に、滋賀県文化賞（文化奨励賞、次世代文化賞含む）受賞者によるコンサートを開催します。

出演：山本 英（フルト）、角野未来（ピアノ）
会場：木之本スティックホール

●滋賀県アートコラボレーション事業

おうみ狂言図鑑2024

2024年3月

狂言の協働制作事業。市町ホール等の活性化と県内の文化ホールとのネットワーク構築を目的に、滋賀を題材にした創作狂言や古典作品を上演します。

出演：茂山千五郎家

会場：3月 3日（日） てんびんの里文化学習センター
3月16日（土） 日野町町民会館わたむきホール虹
3月24日（日） 草津市立草津クレアホール

●障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業（共催）

通 年

誰もが文化芸術活動を楽しめる拠点や支援をする人が集える拠点となる「場」を、県内各地域に生み出すことを目的に、滋賀県が実施する本事業を共催し、市町の文化施設等におけるプログラム等を企画し実施します。

●アート活動支援事業

通 年

県内の文化団体等と協働して、地域のアート活動を支え、アートによる地域活性化を目指します。

（支援予定事業）

- ・けいおんストリート Live
- ・ルシオール アート キッズフェスティバル
- ・糸賀一雄記念賞音楽祭
- ・滋賀県次世代文化芸術センターの「連携授業・文化芸術体験プログラム」 ほか

情報提供

●総合文化誌『湖国と文化』の編集・発行

通 年

『湖国と文化』は、昭和52年（1977年）創刊の滋賀の魅力ある文化を発信する季刊誌で、史跡や人物、自然、伝統行事、文化芸術など多彩な話題を満載しています。

県内主要書店を中心に、文化施設や観光施設でも販売します。

発行日 季刊（7月1日、10月1日、1月1日、4月1日）

発行部数 1回 3,000冊

(2) 受託事業

●第53回滋賀県芸術文化祭

8月下旬～2024年3月(予定)

県民の皆様の文化芸術活動を広く紹介し、公演および創作発表を奨励するため、滋賀県芸術文化祭への参加事業を募ります。また、県民の皆様の美術、写真、文芸の各分野の創作活動における発表および鑑賞の場として3つの公募展の開催および第53回滋賀県芸術文化祭のオープニングイベントを実施します。

① 芸術文化祭参加事業

② 主催事業（※会期・会場は予定）

第62回滋賀県写真展覧会 開催期間：10月17日(火)～10月22日(日)

会場：滋賀県立美術館 ギャラリー

第73回滋賀県文学祭

開催日：11月23日(木・祝)

会場：滋賀県立男女共同参画センター

第77回滋賀県美術展覧会 開催期間：【前期】12月7日(木)～12月12日(火)

【後期】12月15日(金)～12月20日(水)

会場：滋賀県立美術館

③ 第53回滋賀県芸術文化祭オープニングイベント 開催日：8月26日(土)

会場：栗東芸術文化会館さくら

●県内文化情報提供事業

通 年

県内各地の文化施設等で行われる各種の文化情報や滋賀の歴史、風土、自然、文化芸術等の特色ある文化情報を発信します。

① 湖国文化情報『れいかる』編集・発行

県内で行われる各分野の文化芸術情報を県民の皆様にお届けします。

発行日 年5回発行（6月1日、8月1日、10月1日、12月1日、3月1日）

発行部数 1回 30,000部

② 総合文化誌『湖国と文化』提供

季刊誌『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等に配本し、滋賀の文化の魅力を発信します。

発行日 季刊（7月1日、10月1日、1月1日、4月1日）

配本数 1回 420冊

(3) 独自事業

●文化・経済フォーラム滋賀

通 年

「文化で滋賀を元気に！」を合言葉に文化・経済・学術・行政等の各分野の人たちの交流を目的に発足した「文化・経済フォーラム滋賀」の事務局を担い、文化と様々な分野が連携した創造的な活動が広がるよう各種事業を実施します。

事業：文化で滋賀を元気に！賞
文化ビジネス塾、文化経済サロン
講演会 ほか

令和5年度(2023年度)自主事業一覧

(びわ湖ホール)

大ホール

●プロデュースオペラ (2公演) 2024年3月2日(土)・3日(日) R. シュトラウス作曲 『ばらの騎士』(ドイツ語上演・日本語字幕付)

“創造する劇場”として情報発信を目指すびわ湖ホールは、開館以来、日本最高水準の力を結集し、オペラの自主制作を続けており、その活動は全国的に高く評価されてきました。その中心となるプロデュースオペラでは、ヴェルディ日本初演作品シリーズ、共同制作による大規模かつ独創的なプロダクション、2016年度から4年かけて制作・上演し話題となったワーグナーの大作《ニーベルングの指環》四部作(びわ湖リング)、そして2020年度から22年度はコロナ禍の影響からセミ・ステージ形式で上演し、ワーグナーの主要10作品のオペラを全て上演できました。

阪新芸術監督が最初にお贈りするの、ドイツオペラの中でもひととき美しい『ばらの騎士』。国内を代表するキャストを迎え、プロデュースオペラとしては4年ぶりの舞台上演で、国内外に向けて強く情報を発信します。

指揮: 阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督)

演出: 中村敬一

出演: 元帥夫人/森谷真理、田崎尚美、オックス男爵/妻屋秀和、斉木健詞
オクタヴィアン/八木寿子、山際きみ佳*、ファーニナル/青山 貴、池内 響
ゾフィー/石橋栄実、吉川日奈子、マリアンネ/船越亜弥*、ヴァルツァッキ/高橋 淳
アンニーナ/益田早織*、警部/松森 治*、元帥夫人の執事/島影聖人*
ファーニナル家の執事/古屋彰久*、公証人/晴 雅彦、料理屋の主人/山本康寛*
テノール歌手/清水徹太郎* ほか

*びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー

合唱: びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽: 京都市交響楽団

●共同制作オペラ (1公演) 11月19日(日) J. シュトラウスⅡ世作曲 『こうもり』(ドイツ語上演、日本語・英語字幕付)

東京芸術劇場、やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)と連携し、阪が得意とするオペレッタを上演します。演出には、オペラ初演出となる野村萬斎を迎えます。

指揮: 阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督)

演出: 野村萬斎

出演: アイゼンシュタイン/福井 敬、ロザリンデ/森谷真理(山形公演は田崎尚美)
フランク/山下浩司、オルロフスキー公爵/藤木大地、アルフレード/与儀 巧
ファルケ/大西宇宙(山形公演は青山 貴)、アデーレ/幸田浩子
プリント博士/晴 雅彦、フロッシュ/桂 米團治 ほか

管弦楽: 日本センチュリー交響楽団

東京芸術劇場公演: 11月25日(土) / やまぎん県民ホール公演: 12月17日(日)

●開館25周年記念 オペラ ガラ・コンサート (1公演) 9月17日(日)

お客様と共に劇場の25周年をオペラの名曲で祝います。

指揮: 阪 哲朗

出演: 澤畑恵美、石橋栄実、藤木大地、宮里直樹、青山貴、びわ湖ホール声楽アンサンブル
ほか

管弦楽: 京都市交響楽団

●マーラー・シリーズ（1公演）

8月26日（土）

2020年より始まったシリーズ第4弾。引き続き指揮は、沼尻竜典桂冠芸術監督が務めます。

指揮：沼尻竜典（桂冠芸術監督）

管弦楽：京都市交響楽団

曲目：マーラー作曲 交響曲 第7番

●ジルヴェスター・コンサート 2023（1公演）

12月31日（日）

1998年の開館以来、年末年始を素敵な音楽で迎えるカウントダウンコンサートとして、一般参加のファンファーレ隊・合唱団の出演のほか、多数の協賛支援をいただいて行う抽選会など、上質な音楽とエンターテインメント性を併せもったコンサートとして定着してきましたが、交通事情の変化や感染症の影響を踏まえ、2020年度からは、昼間の時間帯に開催しています。

指揮：キンボー・イシイ

管弦楽：大阪交響楽団

ソリスト：未定

司会：桂 米團治

独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

合唱：ジルヴェスター合唱団（一般参加）

ファンファーレ：ジルヴェスター・ファンファーレ隊（一般参加）

●子どものための管弦楽教室（1公演）

2024年3月17日（日）

2008年度より実施してきた好評のシリーズ。子どもたちが楽しみながら学べるだけでなく、大人も一緒にオーケストラについての知識や理解を深められる公演として毎回テーマを設定して実施し、親しまれています。

指揮：藤岡幸夫（関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者）

管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団

<特別コンサート>

●藤村実穂子 メゾソプラノ・リサイタル（1公演）

9月30日（土）

バイロイト音楽祭でも数々の主役級の役を務め、欧米で「最高のメゾソプラノの一人」と称される藤村実穂子がびわ湖ホールで初リサイタルを開催します。

出演：藤村実穂子（メゾソプラノ）、ヴォルフラム・リーガー（ピアノ）

曲目：マーラー作曲 さすらう若人の歌、ツェムリンスキー作曲 6つの歌 Op.13

細川俊夫作曲 2つの子守歌（日本民謡集より）

モーツァルト作曲 すみれ、夕べの想い ほか

<名曲コンサート>（大ホール2公演）

何を聴いてよいかわからないクラシック音楽の初心者の方、そしてクラシック・ファンの方まで気軽に、かつ満足して聴いていただける選曲、出演者でお届けするコンサートシリーズです。1つはオーケストラ公演、1つは器楽公演を実施します。

●オーケストラ公演 日本センチュリー交響楽団（1公演）

7月17日（月・祝）

「これぞ名曲！」といわれる魅力ある楽曲をオーケストラの生演奏でお楽しみいただき、クラシック音楽ファンの拡大を図ります。今回は新進気鋭の指揮者 喜古恵理香を迎え、日本センチュリー交響楽団と共同主催で開催します。

指揮:喜古恵理香
管弦楽:日本センチュリー交響楽団
曲目:ビゼー作曲「アルルの女」第1組曲、第2組曲
ベートーヴェン作曲 交響曲第3番変ホ長調 **op.55**「英雄」

●田村 響 ピアノ・リサイタル(1公演) 9月3日(日)

2007年、弱冠20歳でロン・ティボー国際コンクールにおいて第1位を獲得後、その安定した技術、そして優れた音楽性からソリストだけでなく室内楽奏者としても共演者から信頼を集める田村響が登場します。また今回は、開館25周年を記念してシアターメイツ会員を無料招待します。

曲目:モーツァルト:ピアノ・ソナタ第10番 **K.330**
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第23番「熱情」
ドビュッシー:月の光、亜麻色の髪の乙女
ショパン:ノクターン **op.9-2**、遺作、幻想即興曲、ワルツ **op.18** 華麗なる大円舞曲
シューベルト:即興曲 **op.142-2**

**●びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」(1公演) 8月5日(土)
8月12日(土) 文化産業交流会館**

びわ湖ホール声楽アンサンブルが、唱歌や童謡に加え、昭和や平成に親しまれた名曲をびわ湖ホール、そして文化産業交流会館の特設舞台「長栄座」で演奏します。
また、依頼公演として11月3日(金・祝)には兵庫県立芸術文化センターでも開催します。

指揮:本山秀毅(びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者)
編曲・ピアノ:植松さやか
出演:びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽:京都フィルハーモニー室内合奏団

●石田組(1公演) 11月26日(日)

神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席ソロ・コンサートマスター、京都市交響楽団特別客演コンサートマスターであり、クラシックにとどまらないボーダーレスな活動を展開する石田泰尚がプロデュースするユニット石田組が2021年に続き2回目の登場です。

出演:石田組
ヴァイオリン:石田泰尚、塩田脩、伊東翔太、竹内弦、丹羽洋輔、田村昭博
ヴィオラ:木下雄介、萩谷金太郎、古屋聡見
チェロ:辻本玲、森山涼介、松尾美弦
コントラバス:米長幸一
曲目:シューベルト作曲(マーラー編曲)「死と乙女」(弦楽合奏版)

<バレエ>

●東京バレエ団 子どものためのバレエ「ドン・キホーテの夢」(1公演) 8月12日(土)

世界中のバレエ団がレパートリーとしているウラジーミル・ワシーリエフ版「ドン・キホーテ」を、ワシーリエフ自らが再演出し、子どもたちが初めて見ても楽しめるバレエとして見どころを凝縮した作品です。4歳から入場可能で、地元の子どもたちが子役で出演する機会も設けます。

中ホール

<オペラへの招待>

「オペラをこれから見てみたい」という方にぜひオススメの入門編となるオペラです。びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの扉を開ける」お手伝いをします。なお、2019年度から1演目2公演を4公演に、と徐々に公演数を増やして実施しています。

●オペラへの招待 モーツァルト作曲 『フィガロの結婚』(6公演)

10月7日(土)~9日(月・祝)、10月14日(土)~16日(月)

(イタリア語上演、日本語字幕付)

世界の歌劇場で上演されている人気作品『フィガロの結婚』を新芸術監督 阪 哲朗が指揮を務め、厚い信頼を寄せる松本重孝と共に新制作し、6公演行います。

指揮:阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督)
演出:松本重孝
出演:森谷真理、びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽:日本センチュリー交響楽団

●オペラへの招待 オッフェンバック作曲 『天国と地獄』(4公演)

12月21日(木)~24日(日)

(日本語上演、日本語字幕付)

フレンチカンカンとして有名な『天国と地獄』を日本語上演でお贈りします。岩田達宗の台本・演出、声楽アンサンブル指揮者の大川修司の指揮により、新制作します。市民参加の機会も設ける予定です。

指揮:大川修司(びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者)
演出:岩田達宗
訳詞:宮本益光
出演:びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽:大阪交響楽団

<室内楽>

●ピアノ・ストーリー クララ・シューマンとヨハネス・ブラームス

「音符に愛を閉じこめて」(1公演)

2024年1月14日(日)

作曲家ヨハネス・ブラームスと、作曲家ロベルト・シューマンの妻であり当時高名なピアニストであったクララ・シューマンの愛と友情の物語。

残存するふたりの往復書簡には男と女の濃密なやりとりが記されています。最後まで結ばれることはなかったけれども、決して離れることもなかったふたりの切ない物語を手紙、証言などをもとに、実力派ピアニスト2名の演奏と、声優による朗読で紡ぎます。(初演:2022年東海市芸術劇場)

出演:伊藤 恵(クララのピアノ)、阪田知樹(ブラームスのピアノ)
金月真美(クララの声)、宮坂俊蔵(ブラームスの声)、谷 昌樹(第3の男の声)
構成・台本:安江正也(東海市芸術劇場館長兼芸術総監督)
曲目:ブラームス/ワルツ イ長調 作品 39-15(伊藤・阪田)
ブラームス/ピアノ・ソナタ第2番 嬰へ短調 作品 2より第1楽章(阪田)
モーツァルト/ピアノ協奏曲第23番 イ長調より(伊藤・阪田)ほか

<演劇>

●木ノ下歌舞伎『糸井版摂州合邦辻』（1公演）

7月1日（土）

古典を現代に呼び覚ます“運動”を続ける木ノ下歌舞伎。「摂州合邦辻（せっしゅうがっぼうがっじ）」は説経節「しんとく丸」、「愛護の若」、能「弱法師」などを元にした人形浄瑠璃、歌舞伎作品として成立し、糸井版摂州合邦辻は、糸井幸之介の音楽・演出と木ノ下歌舞伎のタッグが、長い変遷を辿るこの物語の系譜に刻まれるべく、新たな音楽劇の創作に挑んだ舞台です。

作：菅専助、若竹笛躬

監修・補綴・上演台本：木ノ下裕一

上演台本・演出・音楽：糸井幸之介（FUKAIPRODUCE 羽衣）

出演：内田慈、土屋神葉 ほか

製作：ロームシアター京都

●二兎社「パートタイマー・秋子」（1公演）

2024年2月10日（土）

「今、日本でおきていること」をリアルに体感できる演劇づくりで幅広い層から支持される劇作家・永井愛さんが率いる二兎社公演をお届けします。「人は危機的状況でも良心に恥じない行動がとれるか？」スーパーを舞台に問いかける辛口喜劇を上演します。

作・演出：永井 愛

<ダンス>

●オハッド・ハナリン/バットシェバ舞踊団

2024年2月4日（日）

世界のダンス界の最前線を走る振付家オハッド・ハナリンが振り付けるバットシェバ舞踊団の公演を開催します。彩の国さいたま芸術劇場、北九州芸術劇場と連携する日本ツアーです。

<古典芸能>

●野村万作・野村萬斎狂言公演（1日2公演）

2024年3月20日（水・祝）

毎年大好評を博している狂言公演を、引き続きお届けします。

出演：野村万作、野村萬斎 ほか

小ホール

<びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演> (小ホール2公演)

びわ湖ホールの創造活動の核として設立されたホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」。定期公演は、オペラアリア、重唱曲、合唱曲、歌曲、宗教曲など、声楽の多様なジャンルでその真価を問うコンサートです。

●第77回定期公演 「言葉とともに」

4月22日(土)

日本合唱界の重鎮である田中信昭を指揮に迎え、合唱曲をお贈りします。

指揮:田中信昭(びわ湖ホール声楽アンサンブル名誉指揮者)

ピアノ:中嶋 香

曲目:ハイドン作曲 オラトリオ「天地創造」より ほか

●第78回定期公演 「The オペラ！」

2024年3月23日(土)

日本中の声楽家が共演を望む河原忠之が弾き振りで定期公演に初登場。

指揮・ピアノ:河原忠之

<びわ湖の午後63・64>

選りすぐりの演奏家による上質な音楽を、小ホールという親密な空間で聴いていただくシリーズ・コンセプトで、どなたにも贅沢なひとときをお過ごしいただけるリサイタルを開催します。

●びわ湖の午後63 池田香織 メゾソプラノ・リサイタル(1公演) 12月2日(土)

「びわ湖リング」全作出演(『ラインの黄金』エルダ、『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデ)、日本のワーグナー歌手としても地位を確立する池田香織が、びわ湖ホールでリサイタルを開催します。

出演:池田香織(メゾソプラノ)、石野真穂(ピアノ)

●びわ湖の午後64 アンヌ・ケフェレック ピアノ・リサイタル(1公演)

2024年3月10日(日)

現代を代表する名ピアニストの一人に数えられ、国際的な舞台で活躍を続けているケフェレックが約7年ぶりにびわ湖ホールに登場。びわ湖の午後シリーズで、こだわりの珠玉作品を演奏します。

出演:アンヌ・ケフェレック(ピアノ)

<室内楽への招待>

室内楽ファンの裾野を広げていくため、2010年度よりスタートしたシリーズ。多彩な演奏家による室内楽の魅力を紹介するほか、レクチャーなど関連企画を開催します。

●カザルス弦楽四重奏団(1公演)

11月5日(日)

国際的評価を受けるスペインが生んだ弦楽四重奏団がびわ湖ホールに初めて登場します。結成25周年の節目を迎えたカルテットが、西洋の音楽史上最も深遠な対位法作品「フーガの技法」を演奏します。

出演: ヴェラ・マルティネス・メーナー (ヴァイオリン)、アベル・トーマス (ヴァイオリン)
ジョナサン・ブラウン (ヴィオラ)、アルナウ・トーマス (チェロ)
曲目: J.S. バッハ / フーガの技法 ニ短調 BWV1080 (全曲)

＜関連企画＞室内楽講座

なぜ弦楽四重奏でフーガの技法をとりあげるのか

11月5日の公演を前に演奏を聴くのがもっと面白くなる講座を開催します。

日時: 10月21日(土) 14時開講 会場: コラボしが21 大会議室

講師: 中村孝義 (大阪音楽大学理事長)

＜スタインウェイ “ピノ” シリーズ＞vol. 9

びわ湖ホール開館 15周年を迎えた 2013年に、初代芸術監督（～2006年度）故・若杉弘氏が自宅で愛用していたピアノ（スタインウェイ・ハンブルクモデル 1978年製）を寄贈いただきました。本シリーズはそのピアノを活用しお届けするものです。

●日本語とうた ～言葉としての日本語、そして日本のうた～木下牧子と信長貴富

9月2日(土)

ピアニストでありプロデューサーとしても活躍する河原忠之と共に「日本の歌」を紹介するシリーズ第3弾。今回は現代日本を代表する人気の作曲家 木下牧子と信長貴富の作品を取り上げます。

構成・解説・ピアノ: 河原忠之

出演: 船越亜弥、山際きみ佳、山本康寛、迎 肇聡

(全てびわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー)

＜日本音楽財団・全国公立文化施設協会共同事業＞

全国公立文化施設協会、日本音楽財団と連携して公演を開催します。

●ストラディヴァリウス・コンサート

ヴェロニカ・エーベルレ ヴァイオリン・リサイタル(1公演)

9月9日(土)

南ドイツのドナウヴェルト出身、多くの著名演奏家、オーケストラとも共演し、その安定感のある成熟した技術に多数の賞賛が寄せられているヴァイオリニストが登場します。

使用楽器: ストラディヴァリウス「ドラゴネッティ」(1700年製)

出演: ヴェロニカ・エーベルレ (ヴァイオリン)、山田武彦 (ピアノ)

曲目: チャイコフスキー作曲 なつかしい土地の思い出

バルトーク作曲 ラプソディー 第1番

ブラームス作曲 ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ長調 ほか

＜大人の楽しみ方＞

ファッションやライフスタイルにこだわりを持つ方々に、クラシック音楽のみならず様々なジャンルの音楽をお届けし、多様な芸術文化を楽しんでいただくシリーズです。

●大人の楽しみ方 34 鈴木大介 (ギター) & 北村 聡 (バンドネオン) 5月28日(日)

アルゼンチンタンゴの魅力をギターとバンドネオンでお届けします。

出演: 鈴木大介 (ギター)、北村 聡 (バンドネオン)

曲目: ピアソラ作曲 カフェ 1930、ナイトクラブ 1960 (『タンゴの歴史』より)、リベルタンゴ

ロドリゲス作曲 ラ・クンパルシータ ほか

●大人の楽しみ方 35 ハーモニカ・カルテット スヴェング(1公演)

2024年1月24日(水)

フィンランドからハーモニカだけでありとあらゆる音楽を演奏してしまう、スーパー個性派の4人組が登場します。手にはジュラルミンケース、指には金銀ピカピカの特大リング、全員スーツをビシッと決めて颯爽と奏でられるのは、北欧に伝わる伝統音楽から、タンゴにブルース、ラグタイム、果てはショパンまで。楽しいひと時をお届けします。

出演:スヴェング

<気軽にクラシック> (小ホール4公演)

実力派アーティストの演奏による、公演時間1時間、入場料1,100円のコンサート。クラシック音楽の楽しさを満喫できる、文字通り気軽に楽しめる公演をお贈ります。好評を得ており、4公演を実施します。

●気軽にクラシック 35

7月31日(月)

2019年ブラームス国際コンクール第3位入賞、2022年グリーク国際ピアノコンクール第1位と今後、国際的な活躍が益々期待されるピアニスト 石井楓子のソロ・コンサートです。

出演:石井楓子(ピアノ)

曲目:ラヴェル作曲 古風なメヌエット

グリーク作曲 抒情小曲集より

ブラームス作曲 3つの小品より、ヘンデルの主題による変奏曲 ほか

●気軽にクラシック 36

11月25日(土)

びわ湖ホール声楽アンサンブルとしても数々のオペラ公演に出演してきた森 季子が自身の原点というドイツ歌曲を歌います。ピアノは、声楽家からの信頼厚い河原忠之が務めます。

出演:森 季子(メゾソプラノ)、河原忠之(ピアノ)

曲目:シューベルト作曲 糸を紡ぐグレートヒェン、音楽に寄せて

シューマン作曲 女の愛と生涯

マーラー作曲 リュッケルトの詩による5つの歌曲より ほか

●気軽にクラシック 37

2024年1月21日(日)

大阪フィルハーモニー交響楽団、いずみシンフォニエッタ大阪のメンバーであるオーボエ、イングリッシュ・ホルンの名手、大島弥州夫が登場します。「レ・ミゼラブル」などミュージカル・ナンバーをはじめ、歌心満載のオーボエの魅力味わえる1時間です。

出演:大島弥州夫(オーボエ)、橋本礼奈(ピアノ)

曲目:ドニゼッティ作曲 オーボエ・ソナタ

ミュージカル「レ・ミゼラブル」より“夢やぶれて” ほか

●気軽にクラシック 38

2024年2月18日(日)

びわ湖リング『ジークフリート』森の小鳥、『神々の黄昏』ヴォークリンデを好演し、2024年3月には『ばらの騎士』ゾフィー役を務めるドイツ在住のプリマが登場します。びわ湖ホールだけの特別コンサートです。

出演:吉川日奈子(ソプラノ)、湯浅加奈子(ピアノ)

びわ湖の春 音楽祭 2023

阪 哲朗びわ湖ホール芸術監督がプロデュースし、新たにスタートする「びわ湖の春 音楽祭」。多くの方々が気軽に芸術文化を楽しめるよう、優れた音楽家の演奏を低料金で提供します。また、県内全域が音楽で盛り上がる期間（4～5月）を設け、県内各ホールと連携を図り、県域で関連の催しを開催、地域の活性化にもつなげていきます。

2023年度もメインロビーや屋外における無料の公演は、見合わせることにします。

日 程：4月29日（土・祝）・30日（日）

テーマ：ウィーンの風

公演数：有料公演 12公演（大・小ホール）

出 演：阪 哲朗（指揮／びわ湖ホール芸術監督）、京都市交響楽団、日本センチュリー交響楽団（管弦楽）、鈴木優人、田中信昭（指揮）、玉井菜採（ヴァイオリン）、上村 昇（チェロ）、梯 剛之、上野 真、中嶋 香、北端祥人、高橋優介、古野七央佳、矢野雄太（ピアノ）、上野耕平（サクソフォン）、中嶋彰子、老田裕子（ソプラノ）、藤木大地（カウンターテナー）、山内利一（打楽器、津軽三味線）、菊武粧子（箏）、井本蝶山（尺八）、びわ湖ホール声楽アンサンブル

普及事業

●びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演 vol. 14

2024年3月24日（日）

びわ湖ホール声楽アンサンブルの活動と魅力を全国に向けて発信する東京公演。第78回定期公演と同プログラムを東京文化会館小ホールで実施します。

指揮・ピアノ：河原忠之

●舞台芸術研修普及事業

故・若杉弘初代芸術監督から2013年に寄贈されたピアノ（自宅で愛用されていたピアノ[スタインウェイ ハンブルクモデル 1978年製]愛称“ピノ”）をメインロビーに設置し、ロビーコンサートにも活用します。ロビーコンサートは、これまで七夕やハロウィン、クリスマスといった季節にちなんだ無料のコンサートや滋賀県ゆかりの若手演奏家によるロビーコンサート「びわ湖からはばたく」を開催しており、2013年は7月の七夕ロビーコンサート（出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル）よりコロナ禍後3年半ぶりに再開します。

また、声楽アンサンブルによるアウトリーチ活動としての「学校巡回公演」「ふれあい音楽教室」やオペラ『泣いた赤おに』、自主事業に関連したワークショップ、トーク、セミナーを開催するとともに、「オペラ講座」など、舞台芸術の普及のための事業を行います。また、劇場そのものを知ってもらうためのバックステージツアー等を企画します。

さらに、地域の大学との実践的な連携も積極的に進めていきます。

主な事業（予定）

1. ロビーコンサート、「びわ湖からはばたく」ロビーコンサート
2. アウトリーチ事業
3. 講座・ワークショップ等
 - ①オペラ、演劇等のワークショップ（随時）
 - ②オペラ講座

- ③まるっとステージツアー（年2回程度）
- ④夏休み企画（7・8月頃開催）

4. 大学との連携

- ①スタッフワーク講座（年4回程度）
- ②びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～

●びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演（5日間10公演）

5月9日(火)・11日(木)・12日(金)・16日(火)・17日(水)

県内の小・中学校を訪問し、学校の体育館をコンサート会場に変えて約1時間の本格的な音楽公演で歌の魅力を体験していただきます。

指揮: 本山秀毅、松尾卓郎

●ふれあい音楽教室

実施期間: 2024年1月～2月

県内の小・中学校の授業に声楽アンサンブルのメンバー2人とピアニストが参加し、ミニコンサートや歌唱指導を行います。

●県内巡回オペラ『泣いた赤おに』

実施期間: 9～11月

浜田廣介の児童文学を原作に、松井和彦が構成・作曲したオペラ『泣いた赤おに』を県内文化施設や学校の体育館で上演します。可能な限り、劇場さながらの本格的な美術、衣裳、照明を用意し、学校にいなながら本格的な舞台芸術の魅力を体験していただきます。

指揮: 大川修司
演出: 中村敬一
出演: びわ湖ホール声楽アンサンブル
会場: 県内小中学校体育館、文化会館

●ホスピタルコンサート

病院、福祉施設等を会場に、本県出身の新進演奏家等によるコンサートを開催し、病気療養や高齢など様々な理由で生の音楽に触れる機会の少ない方に心穏やかな時間を過ごしていただく機会を提供します。

協力: 一般社団法人滋賀県病院協会、社会福祉法人グロー
出演者: 「湖国新進アーティストによる演奏会～ザ・ファーストリサイタル～」出演者等

●文化庁委託 令和5年度 文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

実施期間: 9～11月予定

文化庁委託事業として、県外の小中学校にてオペラ『泣いた赤おに』公演を行います。事前に行うワークショップでは「ふれあい音楽教室」と同内容の授業を行い、びわ湖ホールとびわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、歌手という職業、オペラ『泣いた赤おに』について紹介します。

指揮: 大川修司
演出: 中村敬一
出演: びわ湖ホール声楽アンサンブル
会場: 文化庁より指定された地域の小中学校・特別支援学校体育館

●びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（「ホールの子」事業）（6日間12公演）
6月1日(木)・2日(金)・6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金) 大ホール

県内のすべての子どもが中学3年生までに舞台芸術に触れる機会を創出することを目的に、びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演する大規模オーケストラ公演を実施します。共生社会づくりの一環として、特別支援学校、各種学校、適応指導教室の児童・生徒も参加します。（非公開）

指揮：阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督)
管弦楽：京都市交響楽団
独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル
脚本・構成：中村敬一

●びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！＜一般公演＞（2公演） 6月3日(土) 大ホール

新芸術監督の就任にあたり、滋賀県の児童に向けて実施している「ホールの子」事業を広く一般にも知っていただけるよう、同プログラムを一般向け公演として有料で実施します。

●アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～vol.15 11月4日(土) 小ホール

一般公募により選ばれた出演者たちによるコンサート。音楽愛好家の皆さんの“憧れの場”であるびわ湖ホール小ホールの舞台に立っていただくことに加え、プロのゲストプレイヤーを迎えて演奏と交流の場を提供します。

●第42回滋賀県ピアノコンクール 予選 12月中旬 草津アミカホール
本選 2024年2月中旬 大ホール

日頃からピアノ演奏に励む滋賀県在住、在学の児童生徒から一般(30歳未満)まで部門別にコンクールを実施します。これまでに県内外で活躍するピアニストを多く輩出している伝統あるコンクールです。

部門：小学校1・2年部門、小学校3・4年部門、小学校5・6年部門、中学校部門、
高等学校部門、学生・一般部門(6部門)

●阪 哲朗オペラセミナー I 8月28日(月)～31日(木) 大ホール

若杉・長野音楽基金を活用し、国内外で活躍する阪が講師を務め、若いコレペティトゥアや指揮者、歌手等のためのオペラセミナーを行います。

講師：阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督)
受講者：プロを目指す若手音楽家
管弦楽：大阪交響楽団

●林 康子 声楽曲研修 7月21日(金)～23日(日)小ホール

若杉・長野音楽基金を活用し、びわ湖ホール声楽アンサンブルのための研修を行います。世界を舞台に活躍したソプラノ歌手 林 康子を迎え、指導の様子を広く一般に公開します。

講師：林 康子
受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル

●びわ湖ホール舞台技術研修
～人材育成講座～成果発表公演「長靴をはいた猫」(音楽劇)
2024年3月16日(土)中ホール

舞台芸術を担う人材の育成を目的とした研修を開催します。連携協定を締結している2大学の学生が授業の一環として舞台技術や作品創りのノウハウを学び、映像・舞台装置・衣裳・小道具のデザインから製作までを行い、全国から集まった舞台技術者や劇場関係者などとともに1週間の研修を通して舞台を創りあげ、成果発表公演を開催します。

財団連携事業

●文化産業交流会館開館 35 周年記念事業 打楽器アンサンブル特別演奏会 (1 公演)

9 月 10 日 (日) 大ホール

前日 9 月 9 日 (土) に文化産業交流会館で開催される記念事業をびわ湖ホールでも実施。滋賀県ゆかりの打楽器奏者ら総勢 20 名で結成されたアンサンブルで、世界的にも珍しい多人数による打楽器アンサンブル曲「ドラミング」(作曲:スティーヴ・ライヒ)を演奏します。

共催事業

●パレルモ・マッシモ劇場 プッチーニ作曲 歌劇『ラ・ボエーム』(1 公演)

6 月 22 日 (木) 大ホール

ヨーロッパ屈指の規模を誇る歌劇場3度目の来日公演。指揮にイヴァン・チャンパを迎え、巨匠ムーティが推すテノールのザダ、若手ソプラノのホープ、マンゾ、ヌッチオをはじめイタリアオペラ界を背負って立つ注目のキャストが出演します。

指揮:フランチェスコ・イヴァン・チャンパ 演出:マリオ・ポンティツィジャ
出演:ミミ/フランチェスカ・マンゾ、ロドルフォ /アゼル・ザダ
マルチェッロ/フランチェスコ・ヴルタツジョ、ムゼッタ/ジェシカ・ヌッチオ ほか
管弦楽・合唱:パレルモ・マッシモ劇場管弦楽団・合唱団

●ボローニャ歌劇場 ベッリーニ作曲 歌劇『ノルマ』(1 公演) 11 月 11 日 (土) 大ホール

北イタリアの名門 ボローニャ歌劇場6度目のびわ湖ホール公演です。ノルマに世界中の歌劇場からオファーの絶えないドットを迎えてお贈りします。

指揮:ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ
演出:ステファニア・ボンファデッリ
出演:ノルマ/フランチェスカ・ドット、ポリオーネ/ラモン・ヴァルガス
アダルジーザ/脇園 彩 ほか
管弦楽・合唱:ボローニャ歌劇場管弦楽団・合唱団

●古澤 巖の品川カルテット (2 公演+フリーコンサート) 6 月 29 日 (木) 大ホール

カリスマ的なパフォーマンスで聴衆はもとより、演奏家からも絶大な信頼を集める古澤 巖が立ち上げた「品川カルテット」。古澤がその才能に惚れ込んだロベルト・ディ・マリーノ作品と弦楽四重奏の名曲を演奏します。客席数は限定 300 席ほどに設定し、ゆったりと聞けるコンサートを2公演、そしてその前には乳幼児連れの方などを対象としたフリーコンサート(30 分間の無料コンサート)を行います。

ヴァイオリン:古澤 巖、福田悠一郎 ヴィオラ:TAIRIK チェロ:高木慶太
曲目:ロベルト・ディ・マリーノ作品 ほか

●KEIBUN第九 2023 演奏会 (1 公演)

12月9日(土) 大ホール

指揮:尾高忠明
管弦楽:大阪フィルハーモニー交響楽団
独唱:びわ湖ホール声楽アンサンブル
合唱:KEIBUN第九合唱団、びわ湖ホール声楽アンサンブル
曲目:ベートーヴェン作曲 交響曲第9番ニ短調 op.125「合唱付き」

●日本センチュリー交響楽団びわ湖定期 vol.16 (1 公演) 2024年1月28日(日)大ホール

日本センチュリー交響楽団のびわ湖定期 16 回目。指揮は、ミュージックアドバイザー秋山和慶です。

指揮:秋山 和慶
ピアノ:久末 航
曲目:ウェーバー作曲 『オベロン』序曲
ベートーヴェン作曲 ピアノ協奏曲第1番 ハ長調 op.15
メンデルスゾーン作曲 交響曲第3番 イ短調 op.56「スコットランド」

●～鳩の音楽会 2023～ (1 公演)

9月24日(日) 中ホール

2022 年度平和堂財団芸術奨励賞(音楽部門)の受賞者とこれまでの受賞者による演奏をお届けします。

●大西宇宙 バリトン・リサイタル (1 公演)

10月22日(日)小ホール

ジュリアード音楽院卒業後、アメリカ三大歌劇場の 1 つにも数えられるシカゴ・リリック・オペラの所属歌手として活躍し、今最も注目される若手バリトン歌手と名歌手との共演で名高いブライアン・ジーガーとのデュオリサイタルを開催します。

出演:大西宇宙(バリトン)、ブライアン・ジーガー(ピアノ)

令和5年(2023年)度 びわ湖ホール自主事業カレンダー

※共催予定事業を含む。

	大ホール	中ホール	小ホール
4月			22(土)声楽アンサンブル第77回定期
	29(土・祝)・30(日)びわ湖の春 音楽祭2023		
5月			28(日)大人34 タンゴ 鈴木大介&北村 聡
6月	1(木)・2(金)、6(火)～9(金)音楽会へ出かけよう! 3(土)音楽会へ出かけよう! 一般公演 22(木)パレルモ・マッシモ【共催】 29(木)古澤 巖の品川カルテット【共催】		
7月	17(月・祝)名曲 喜古恵理香&日本センチュリー	1(土)木ノ下歌舞伎	21(金)～23(日)林康子声楽曲研修 31(月)気軽35 石井楓子(ピアノ)
8月	5(土)美しい日本の歌 12(土)東京バレエ団 子ども「ドン・キホーテの夢」	お盆休み8/13～18	
	26(土)マラー 沼尻竜典×京都市交響楽団 28(月)～31(木)阪哲朗オペラセミナー I		
9月	3(日)名曲 田村響 ピアノ・リサイタル 10(日)文化産業交流会館開館35周年記念事業【財団提携】 17(日)開館25周年記念 オペラ・ガラ 30(土)特別 藤村実穂子メゾソプラノ・リサイタル	24(日)～鳩の音楽会～【共催】	2(土)ピアノ9 日本語とうた 9(土)ヴェロニカ・エーバルレ ヴァイオリン・リサイタル
10月		7(土)～9(月・祝)、14(土)～16(月) オペラへの招待『フィガロの結婚』	22(日)大西宇宙バリトン・リサイタル【共催】
11月	11(土)ポーニャ歌劇場【共催】 19(日)共同制作オペラ『こもり』 26(日)硬派弦楽アンサンブル「石田組」		4(土)アンサンブルの楽しみ 5(日)室内楽 カザルス弦楽四重奏団 25(土)気軽36 森季子
12月	9(土)KEIBUN第九【共催】 31(日)ジルヴェスター・コンサート2023	21(木)～24(日)オペラへの招待『天国と地獄』	2(土)びわ午後63 池田香織メゾ・ソプラノリサイタル
1月	28(日)日本センチュリーびわ湖定期vol.16【共催】	14(日)ピアノ・ストーリー	21(日)気軽37 大島弥州夫 オーボエの歌 24(水)大人35 ハーモニカ・カルテット スヴェング
2月	調整中 滋賀県ピアノコンクール本選	4(日)オハッド・ナハリン／パットシエバ舞踊団 10(土)二兎社47 「パートタイマー・秋子」	18(日)気軽38 吉川日奈子(ソプラノ)
3月	2(土)・3(日)プロデュースオペラ『ばらの騎士』 17(日)子どものための管弦楽教室	16(土)舞台技術研修成果発表「長靴をはいた猫」 20(水・祝)野村万作・野村萬斎狂言公演	10(日)びわ午後64 アンヌ・ケフェレックピアノ・リサイタル 23(土)声楽アンサンブル第78回定期
その他	5月 学校巡回公演(県内各学校10公演) 8月12日(土)美しい日本の歌 米原公演 2024年3月24日(日)声楽アンサンブル東京公演 9月～11月 県内巡回オペラ『泣いた赤おに』 9月～11月予定 文化庁巡回公演事業 ロビーコンサート(7月のびわ湖ホール声楽アンサンブルのロビーコンサートより再開予定) その他、各種講座、ふれあい音楽教室、ホスピタルコンサートなど		

令和5年度（2023年度）自主事業一覧

（文化産業交流会館）

イベントホール

●滋賀県次世代創造発信事業 芝居小屋「長栄座」夏のフェスティバル2023

①長栄座伝承会「むすひ」～東西を結び、刻を結び、乾坤を結ぶ～ 8月5日(土)・6日(日)

②「むすひ」完成記念 片山九郎右衛門 親子で楽しむ日本の伝統芸能～能「大会(だいえ)」
8月11日(金・祝)

③びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」米原公演 vol.3 8月12日(土)

「弁財天」をテーマに、江ノ島、厳島、竹生島を1年毎に取り上げる3年がかりの公演で、最終年となる令和5年度は、弁財天に仕える十五王子が竹生島に勢揃いします。また、令和4年度に人間国宝に認定された尺八演奏家野村峰山が、滋賀ゆかりの曲を披露します。

「むすひ」完成記念として、片山九郎右衛門と滋賀ゆかりの能楽師による小学生を対象とした能のワークショップと舞台公演を行います。

フェスティバルのフィナーレは、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる「美しい日本の歌」米原公演で締めくくり、和の文化の魅力を県内外に発信します。

●開館35周年記念事業 スティーヴ・ライヒ/ドラミング 湖国が生んだ打楽器奏者の協演

文産公演：9月9日(土)

びわ湖ホール公演：9月10日(日)

開館35周年を記念し、滋賀ゆかりの打楽器奏者等総勢20名のアンサンブルを結成し、世界的にも珍しい多人数による打楽器アンサンブル曲「ドラミング」(作曲：スティーヴ・ライヒ)を2会場で演奏します。

●ぶんさん0歳児からのコンサート vol.3

11月19日(日)

ベビーカーに乗ったまま楽しめる「0歳児からのコンサート」。生まれてすぐに舞台芸術を体感できるとともに、子育て中の保護者にとっては日常のストレスから解放された時間を過ごすこともできる全世代向けのコンサートです。大阪交響楽団とパフォーマンスの特別編成で開催します。

●開館35周年記念事業 佐渡裕指揮：シエナ・ウインド・オーケストラ演奏会 12月10日(日)

開館35周年を記念し、当館で2年ぶりとなるシエナ・ウインド・オーケストラに首席指揮者 佐渡裕を迎え、全国の吹奏楽ファンが熱狂する迫力のブラスサウンドをお届けします。

●滋賀県次世代育成ユースシアター事業 邦楽ミュージカル

12月17日(日)
(6月～出演者募集)

県内の子どもや青少年を対象に出演者を公募し、当会館の特色を活かして邦楽によるミュージカルに挑戦。文化活動を通じた青少年の育成を目指すとともに、湖北・余呉湖の羽衣伝説を取り上げ、地域文化資源の発信を図ります。

●フィールドアート2024

2024年1月27日(土)・28日(日)

イベントホールの特性を活かしたマーチングバンドの祭典は、県内外の高等学校吹奏楽部や一般のマーチングバンドなどが参加し、舞台照明で演出されたエンターテインメント性の高い企画として注目されています。若さ溢れる躍動感のあるパフォーマンスをお届けします。

●びわ湖ホール声楽アンサンブル オペラ「泣いた赤おに」

秋頃

浜田廣介の児童文学を原作とし、心ふるわすストーリーで子どもたちからも人気の高いオペラをびわ湖ホール声楽アンサンブルがお届けします。

●絢香コンサートツアー2023**8月20日(日)**

「にじいろ」「三日月」「みんな空の下」など数多くのヒット曲を生む絢香の4年ぶりとなる会館公演をお届けします。

●ポピュラー音楽コンサート**年2公演予定**

県内をはじめ広域で来場が見込める若年層やシニア層を対象としたポピュラー音楽コンサートを行います。

小劇場**●「びわ湖の春 音楽祭 2023」米原公演 びわ湖ホール声楽アンサンブル ぶんさんサンクスコンサート****4月23日(日)**

春に開館35周年を迎える会館に感謝の気持ちを込めて、地域の方が気軽にお楽しみいただけるように小劇場で、びわ湖ホール声楽アンサンブルによるコンサートを開催します。

●ラストラダ カンパニー公演「らふいゆれふいゆ」**5月28日(日) 2公演**

音楽家シモシュと道化師のラストラダカンパニーが、音楽とマイムで繰り広げる舞台を上演。楽しくも美しい言葉のない舞台は子どもから大人、外国の方までどなたでもお楽しみいただけます。

●びわ湖ミュージックフォレスト**年4公演**

滋賀にゆかりのある新進アーティストや、担い手の少ない邦楽演奏家によるコンサートを開催します。若いアーティストの育成・支援とともに、県北部地域の顧客を開拓し、リピーターの定着を目指します。

- ① 駒田早代、二代目 佐々木光儀、中村混己(津軽三味線) 6月10日(土)
- ② 谷田翔平(Vn)、堀内心優彩(Fl)、武田優美(Pf) 7月16日(日)
- ③ デビューリー雪乃(Cb)、廣田沙羅(Pf) 10月21日(土)
- ④ 柏原朱(Tp)、小和将太(Tp)、篠邊千菜(Hr)、西村菜月(Tb)、澤村隼(Tuba) 1月13日(土)

●開館35周年記念事業 藤原道山尺八コンサート「雙-SO-」**2024年2月23日(金・祝)**

開館35周年を記念し、滋賀県出身の人間国宝である初代 山本邦山に師事し、尺八の新たな魅力を拓く第一人者として、邦楽のみならず幅広いジャンルで活躍中の藤原道山のコンサートを開催します。

普及事業**【人材育成】****●長栄座をさらに楽しむプレ企画****5月21日(日)**

「長栄座」公演に向けて、様々なジャンルの演目で取り上げられている「竹生島」を題材に、身近な地域の文化資源を劇場で活かす方法について考えます。

「滋賀の歴史遺産と芸能～芸能史から見た滋賀～」をテーマに、講師 小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)に、ゲスト 坂口泰章(長浜城歴史博物館学芸員)を迎え開催します。

●長栄座をさらに楽しむプレ企画**7月2日(日)**

「芸能における『竹生島』～『竹生島』を演じる～」をテーマに、講師 小林昌廣に、ゲスト 田茂井廣道(観世流能楽師)を迎え開催します。

●滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークショップ 8月～11月
成果発表会 11月12日(日)

日本の古典芸能の世界を身近に感じ、その楽しさに触れることのできる子ども向けの箏と日本舞踊の体験ワークショップと成果発表会を行います。

●滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニア・アンサンブル 7月～11月
成果発表会 11月12日(日)

体験ワークショップの古典芸能キッズワークショップの修了生を中心に、次のステップアップコースとして、特に参加希望の多い箏部門のワークショップと成果発表会を行います。

●滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業 11月～2月
成果発表会 2月11日(日・祝)

若手の演奏家を対象に公募し、邦楽(箏・三弦・十七絃)の研鑽機会を提供します。「長栄座」事業等への出演機会とともに、事業後は滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」へ登録して活動を継続していただきます。

【普及啓発】

●滋賀県次世代創造発信事業 「和のじかん」 10月～2月

邦楽(箏・三弦・尺八等)の若手演奏家を小・中学校に派遣し体験プログラムを実施し、児童・生徒に古典芸能に興味を持ってもらう機会とします。

●びわこ文化センター 文化講座 通年

令和4年度から当会館が運営している「びわこ文化センター」で約70の文化講座を開講します。会館事業と連携し講座内容の充実を図ります。

●かがやき☆フェスタ 2023 作品展示：5月10日(水)～14日(日)
舞台発表：5月14日(日)

びわこ文化センター受講生が日々培った成果を発表する場として、小劇場およびロビーにて舞台発表や作品展示を行います。また、各講座の体験コーナーを設け、新規会員の獲得に努めます。

【産業連携】

●ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館 4回程度

公益財団法人滋賀県産業支援プラザと起業家向けのビジネスセミナーを開講するとともに、文化・経済フォーラム滋賀と協働し、産業分野をはじめ多様な方と芸術文化を通じた地域振興について考えます。

●近江のあたらしい伝統産業展 8月5日(土)・6日(日)

湖北地域をはじめとする滋賀の伝統的工芸品や特産品の展示販売を行い、「むすび」公演を盛り上げます。

【情報提供】

●プレイガイド&アートインフォメーションコーナー

通年

情報紙、書籍等の閲覧、文化情報の提供、催し物チケットの販売のほか、県民の方々や県内文化ホールからの芸術文化に関する企画、舞台技術等の相談業務を行います。また、公益社団法人びわこビジュアルビューローの協力を得て、滋賀の観光情報を提供します。

受託事業

●平和堂財団 音楽事業

滋賀県内の次世代を担う若い人たちの健全な成長に長年にわたって注力されている公益財団法人平和堂財団の音楽部門の事業を当財団が受託し、滋賀にゆかりのある若手演奏家の育成プログラムの制作を担います。

- ・芸術奨励賞受賞者による「鳩の音楽会」
9月21日（木）高槻城公園芸術文化劇場
9月23日（土・祝）ひこね市文化プラザ
9月24日（日）びわ湖ホール
- ・音楽部門芸術奨励賞選考会
2024年1月8日（月・祝）
ひこね市文化プラザ
- ・室内楽セミナー&公演「びわ湖ミュージックハーベスト」
2024年3月21日（木）～24日（日）
文化産業交流会館
- ・平和堂財団設立35周年記念「ガラコンサート」
(2024年12月22日（日）びわ湖ホール)

令和5年度(2023年度)文産会館自主事業カレンダー

	イベントホール	小劇場	ホール外
4月		・23日(日)びわ湖の春 音楽祭2023 米原公演	
5月		・14日(日)かがやき☆フェスタ2023(展示:10日~14日) ・28日(日)ラストラーダ カンパニー 「らふいゆれふいゆ」	・長栄座プレ企画 21日(日)第1会議室
6月		・10日(土)ミュージックフォレスト①(津軽三味線)	
7月		・16日(日)ミュージックフォレスト②(ヴァイオリン、フルト、ピアノ)	・長栄座プレ企画 2日(日)練習室1
8月	芝居小屋「夏のフェスティバル 長栄座」	・5日(土)長栄座「むすひ」公演 ・6日(日)長栄座「むすひ」公演 ・11日(金・祝)「むすひ」完成記念 親子で楽しむ日本の伝統芸能 ・12日(土)びわ湖ホール声楽アンサンブル 「美しい日本の歌」米原公演vol.3 ・20日(日)絢香コンサートツアー2023	・伝統産業展 5日(土)・6日(日)ロビー
9月		・9日(土)35周年記念 湖国が生んだ打楽器奏者の協演	・打楽器奏者の協演 10日(日) びわ湖ホール ・鳩の音楽会 21日(木) 高槻城公園芸術文化劇場 23日(土・祝) ひこね市文化プラザ 24日(日) びわ湖ホール
10月		・21日(土)ミュージックフォレスト③(コントラバス、ピアノ)	
11月	・19日(日)ぶんさん0歳児からのコンサート vol.3	・12日(日)古典芸能キッズワークショップ& 箏曲ジュニア・アンサンブル成果発表会	和のじかん
12月	・10日(日)35周年記念 佐渡裕&シエナ・ウインド・オーケストラ ・17日(日)ユースシアター事業 邦楽ミュージカル		学校訪問
2024年1月	・27日(土)、28日(日)フィールドアート2024	・13日(土)ミュージックフォレスト④(金管五重奏)	・音楽部門奨励賞選考会 8日(月・祝) ひこね市文化プラザ
2月		・11日(日)邦楽専門実演家養成事業成果発表会 ・23日(金・祝)35周年記念 藤原道山尺八コンサート	
3月		・21日(木)~24日(日)びわ湖ミュージックハーベスト	

(開催月日未定)

- ・ポピュラー音楽コンサート(年2回)
- ・オペラ「泣いた赤おに」

その他 ビジネスカフェ 年4回程度(会議室等)[共催]

(通年)

- ・びわこ文化センター 文化講座
- ・プレイガイド&アートインフォメーションコーナー